

社会科学学習指導案（歴史）

授業の視点

本時の授業を展開するにあたり、意見を出し合う方法としてブレインライティングは、内容を比較したり、モデルとしたりして新たな視点を見いだせたか。

1 単元名 古代までの日本（古代国家の歩みと東アジア世界）

2 考察

(1) 実態

① 主な学習事項に関する実態

学習に対する取り組みは真面目で、授業での発言等も多い。テーマ学習で調べてまとめるなどの作業はお互いに協力してよくできる。特に発表では各グループで工夫して取り組むことができた。課題解決的な学習において、様々な資料を活用し、比較・関連付けして課題の正しい答えや仮説の正しさについて考えることは不十分であるが、グループ活動にするとお互いの意見を様々な角度から見られ、自分の考えを修正しながら発展的な意見交換ができ、一斉授業ではなかなか見られない生き生きとした表情で学習に取り組める。資料の活用では、多面的な見方から資料選択して解決していくとき、自分の視点で解決のポイントをおさえることが意識できるようになった。

前単元「文明のおこりと日本の成り立ち」で、縄文時代の「三内丸山遺跡」と弥生時代の「吉野ヶ里遺跡」の資料を使った学習でその比較や具体的な遺跡の発掘や出土した副葬品や土器などから、稲作や指導者の出現、大陸の文化の影響などの様子を理解し、具体的な事物から情報を取り出して歴史的な事象を考察する力を身に付けてきた。

授業における観察やアンケートの事前調査から日本の古代国家に関する実態は、四つの観点から次のようになる。

② 社会的な事象への関心・意欲・態度

・日本の歴史（古代）の学習に関心・意欲について「関心がある」生徒は22名である。これは小学校で聖徳太子や大化改新などについて学習したり、法隆寺や東大寺の大仏などにある程度の知識を持っていたりするからである。「歴史より地理の方が好き」という生徒の理由は、歴史は暗記するのが大変だからなどの理由である。

・これらの生徒は、歴史的な事象を単に覚えさせるのではなく、自分の疑問点を追究させたり、自ら課題設定させたり、興味・関心を大切に意欲づけさせる支援が必要である。学習に当たっては、「各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成」（内容の取扱い）するための、学習の動機付けが求められる。例えば、生徒がもっているその時代のイメージを表現させたり、前の時代との違いを予想させたりすることなどが考えられる。これによって、その時代全体の特色をとらえることが学習の基本的なねらいであることを意識して学習を進めさせることが大切である。

③ 社会的な思考・判断・表現

・「古代について」の質問で「聖徳太子」と答えた生徒は11名。他は「十七条の憲法」「小野妹子」「大化の改新」「聖武天皇」「大仏」「貴族」「源氏物語」等である。これらの歴史的な事象を多角的・多面的に考察する力を身につける必要があるが、生徒の作業的な活動を通して、主題に対する自分なりの視点や考え方をノートに記入させるなどして、その変容を評価の視点とする。

④ 資料活用の技能

・資料を活用する場合、たとえば教科書を使って調べるとその内容を書き写して終わりにしてしまうことが多く、さらに資料を使って調べようとする生徒は少ない。したがって複数の資料を使ってより多くの情報を得ようとすることやそれを素早くまとめる力を養う指導が必要である。

⑤ 社会的な事象についての知識・理解

・小学校の学習で日本の古代の歴史に関する知識については、「聖徳太子」「十七条憲法」「小野妹子」等を知っている。しかし、古代国家の形成のあらましや東アジアとかかわりからの理解は不十分である。また、歴史的な事象の内容や意義など基礎的・基本的な知識を身に付けるために自分の疑問をもとに課題を設定させて興味・関心を持って意欲的に課題追究できるよう支援する必要がある。

(2) 教材観

① 主な学習事項

日本の古代国家が、律令国家として確立・展開する過程、および、それが修正を迫られ、解体への道を歩むとともに、新しい勢力が台頭して時代をとってかわる、いわゆる古代の終末までを学習する。本単元前半の7～8世紀の日本は、「聖徳太子の政治改革」「大化改新」による国制の整備、国力の発展など、古代史上では特に重要な変革の時代である。聖徳太子の政治改革では、7世紀前半における大和国家の中央集権化がおし進められた背景、それは中国における隋・唐統一国家の出現、朝鮮三国をふくむ東アジアの情勢とどのように関連するのかを、ねらいとしている。7世紀後半は、隋・唐の律令制度を導入した日本が、中央集権的官僚国家を建設する時期であるが、国情の異なる中国の制度をどのように日本の制度に同化させていったのかをねらいとする。8世紀になると、唐を中心とする東アジア世界のなかで、国力を発展させる反面、社会矛盾が早くも露呈し、動揺し始めるという二面性があらわれてくる。「天平文化」の特質も、この二面性の反映という観点でとらえる。

本単元後半の「平安京と東アジアの変化」「摂関政治と文化の国風化」は、日本の古代国家が、律令国家として成立・展開する過程、そして、それが修正を迫られ、解体への道を歩むとともに律令政治がしだいに変質し、新しい貴族勢力に取って代わられる。それらの背景・影響に、中国を中心とする大陸・東アジア世界があったことを、大きくとらえることをねらいとする単元である。

② 社会的事象への関心・意欲・態度

・聖徳太子の政治改革や大化改新など具体的な事象を通して学習することにより、6～7世紀かけて天皇中心の国づくり行われたことを容易に理解することができ、古代国家の成立に対する関心を高めることができる。

・外国が日本の歴史に大きな影響を与えたことに気づくことにより、日本の歴史を外国の歴史とかわらせて学ぼうという意欲を高めることができる。

・生徒の実態に応じて関心ある主題ごとに作業や発表の場を保障し、主体的な活動を仕組むことが、生徒一人ひとりの歴史を学ぶ意欲に結びつくと考えられる。

③ 社会的な思考・判断・表現

・日本の古代国家は、6～12世紀の間に大陸の国々との密接な関係を持ちながら天皇中心とした国づくりが行われ、具体的には聖徳太子の政策や大化改新から摂関政治を通して、律令国家の確立に至る過程を適切に表現できる。

・客観的な資料をもとに歴史的事象を複数の視点から多角的に考察し、歴史的事象の意義などを公正に判断する力を養うことができる。

・歴史的事象を因果関係に基づいて考察するなど、歴史の変遷を論理的に思考する力を身に付けることができる。

・大陸の国々の歴史を背景として日本の歴史をとらえるなど、広い視野で歴史的事象を考察する力を養うことができる。

④ 資料活用の技能

・情報収集の際には多くの資料の中から必要な情報を取捨選択したり、仮説を検証する際に活用したりすることを通して資料活用能力を培うことができる。

⑤ 社会的事象についての知識・理解

具体的には、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを、次の各事項の学習を通して理解させることである。

・聖徳太子の政治では、十七条憲法の制定、冠位十二階の制定などから、それまでの豪族中心の政治を変革し、天皇中心の中央集権国家をつくり上げようとした聖徳太子の政治のねらいを理解する。

・蘇我氏の台頭に反発した中大兄皇子と中臣鎌足によって大化改新が行われたことを理解する。

・遣隋使の派遣や朝鮮半島への進出が日本の政治や文化に与えた影響を理解する。

このように、本題材で学習することは、資料の中から必要な情報を取捨選択し、複数の資料に基づいて歴史的事象を多角的に考察し、広い視野から公正に判断する力を身に付けることができる。

(3) 系統

小学校

第6学年 天皇中心の国づくり世界に歩み出した日本

○世界文化遺産の法隆寺 ○聖徳太子の国づくり ○大化の改新と天皇の力の広がり

○仏の力で国を治める ○全国から集められた人々が大仏をつくる ○大陸の文化を学ぶ
○貴族のくらし ○日本風の文化が生まれる ○平安時代の子どもの遊び一年中行事絵巻

中学校

第1学年 国家の歩みと東アジア世界

○聖徳太子の政治改革 ○大化の改新 ○律令国家の成立と平城京
○奈良時代の人々のくらし ○天平文化 ○平安京と東アジアの変化
○摂関政治と文化の国風化 ○考古学のとびら

(4) 指導の方針

①本単元は、「聖徳太子」「十七条の憲法」「東大寺の大仏」など具体的な歴史的人物や事象から時代の特色をとらえることのできる課題を設定し、追究することが容易であり、課題解決学習に適している。課題解決学習を進めていくため学習過程を考え、②で支援の方法をさぐっていく。それぞれ学習段階で学習の進め方がわかり、課題解決に見通しをもって合理的な課題追究が行えるようにする。

② 学習過程での支援の方法

・「つかむ」段階として、小学校での学習の成果を生かし、生徒たちの興味や関心にうったえるように、既習の歴史的人物から課題「聖徳太子は日本人ではなかった？」を使って生徒たちに興味を喚起させて共通課題として全体で考えていけるように意欲付けを図る。

・「追究する」過程では、聖徳太子の政治改革後、「日本の国づくりはどのように進んでいったのか」課題解決的な学習を設定し、ジグソー学習の形態を取り入れ、各自が主体的に物事をとらえ、思考できる力を培えるように、一人ひとりに自分の考えを持たせ、次にグループ活動を行いながらお互いの意見交換を大切にする。

・生徒に実施した古代のイメージのアンケート調査を活用し、「課題設定」における一人一人の支援に役立てたい。

・班で設定した課題にかかわって、用語や言葉の意味、課題の意義、追究の方法等について話し合わせ、分からないことは相談し、助言を得る等指示し支援する。

・課題に対する個人の予想（仮説）を考えさせるとともに、そこから班の予想の話し合いで設定する。またその予想から追究する視点や方法を考えさせる。

・情報収集で資料選択時に、そのまま写すのではなく、問題点をとその資料を選択した理由を記述させるとともに、はっきりさせ解決するために必要な資料としてまとめられるようワークシート作成し支援していく。

・「考え・まとめる」では、ブレインライティングを活用し、意見を出し合う。発表においては、お互いの考えを認め、自分たちが調べた視点以外から課題解決の共有化を図るとともに、課題追究を深めるきっかけにしたい。

(5) 校内研修とのかかわり

① 伝え合い・話し合い活動に関する実態

・1学期の地理的分野の学習単元「人々の生活と環境」で生徒一人ひとりを特別非常勤講師として、各班4人の班別学習で一人5分の授業を行った。授業を進めるためのマニュアルを作成し、それを参考にした。それぞれ自分が選んだ世界各地の人々の生活の様子やくらしについて事前に調査し、ノートにまとめ、5分の授業をする、という表現活動を行った。生徒は5分間という短い時間のなかで教科書や資料を読ませたり、ポイントチェックしたり、質問をしたり活発な活動していた。

② 伝え合い・話し合い活動（言語活動の充実）の工夫

・言語活動の充実の視点から中学校学習指導要領解説—社会編（歴史的分野）—2内容（1）ウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。」（内容の取り扱い）「ウについては、内容の(2)以下の各時代の学習のまとめとして実施することを原則とすること。その際、各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成した上で、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、大観や表現の仕方を工夫して、各時代の特色をと

らえさせるようにすること。」

・「時代を大観し表現する活動」とは、学習した内容の比較や関連付け、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、「つまりこの時代は」「この時代を代表するものは」など各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動である。これによって、「思考力・判断力・表現力等を養う」とともに、各時代の特色を生徒が自分の言葉で表現できるような「確かな理解と定着を図る」（内容の取扱い(1)イ）ことが求められる。

・古代の文化の学習に際しては、天皇・貴族、遣唐使、物語の作者などの「文化を担った人々」（内容の取扱い）に着目させる。その際、「代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる」（内容の取扱い(1)ウ）ようにする。

3 指導目標

大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程、摂関政治を通して理解させる。また、国際的な要素を持った文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、具体的な事例を通してとらえさせる。

4 評価規準

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

小学校の歴史学習を生かして、古代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代の特色を捉えようとしている。

(2) 社会的な思考・判断・表現

律令国家の確立に至るまでの過程や摂関政治・仏教の伝来とその影響や仮名文字の成立などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を的確に表現している。今とのつながりから古代の特色を捉え、的確に表現している。

(3) 資料活用の技能

律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治・仏教の伝来とその影響や仮名文字の成立などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったりまとめたりしている。

(4) 社会的事象についての知識・理解

大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、貴族の政治が展開したこと、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国際化が進んだこと、それらが今につながっていることなどを理解し、その知識を身に付けている。

5 指導と評価の計画（9時間予定 本時は7時間目）

学習過程	主な学習活動	主体的な活動を促す 支援・手だて	評価項目と方法
	*【 】内は、学習形態 ()内は、扱い時間数		*①～④は、評価の観点 []内は、方法
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題「聖徳太子は日本人ではなかった？」 「聖徳太子の政治改革」を班別5分間授業を行い質問や発表し合う。 【一斉】【班別】（1）	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の歴史学習や前単元の学習を生かし、「聖徳太子の政治改革」について、授業マニュアルを活用して既習の学習方法から意欲をもたせる。 	①②聖徳太子の政治改革「十七条の憲法」などの基礎的・基本的内容を理解し、天皇中心の国づくりについて適切に表現している。 [観察・発表]
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の学習を想起して「聖徳太子」「大化の改新」「聖武天皇」についての問い 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本」をつくろうとした聖徳太子、その後「天皇中心の国づくり」を引き継いだ人 	④「大化の改新」「聖武天皇」の時代が天皇中心の国づくりと深く関わることに気づ

	<p>に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表を用いて6～7世紀の歴史的 position と日本で起きた歴史的な事象を確認する。 <p>【一斉】【個別】（1）</p>	<p>物や東アジアの情勢のかかわりなどやその文化の特色から課題を把握させる。</p>	<p>いている。</p> <p>④隋と唐の位置や制度や文化の特色を知るとともに日本に影響を与えたかかわりを正しく答える。 [ワーク・発言]</p>
<p>追究する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題「日本の国づくりはどのように進んでいったのか」聖徳太子以後の政治にかかわる課題を設定、前時の疑問やさらに調べたいことを話し合いながら関連する歴史的な事象を選んでカード作りをする。 ・選んだ事象について班で分担する。班を編成し課題を設定する。 <p>【一斉・班別】（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のなどの資料から「律令国家の確立」天皇を中心とした中央集権的な国づくりと関連が深い歴史的な事象をカードに書かせ、歴史的な事象ごとにまとめ、課題の対象となる事象を意識しながら課題を設定できるようにする。 ・個人の課題を生かしながら班の課題を設定するように助言する。 	<p>③教科書のなどの資料から、戸籍の作成や法令の制定など律令国家の確立に至るまでの過程に關係の深い事象を選択し、その内容を調べて友人に説明している。</p> <p>[カード・発言]</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ歴史的な事象について班で分担して調べる。 ・事象のリサーチは、別の班で同じ事象を調べている人と協力して調べる。 ・最初の班に戻り、班内で説明し合う。【班別】（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの歴史的な事象の政策等が、中央集権的な国づくりにとってなぜ必要だったのかに着目させる。 ・追究する意義のある事象であるか等各班で検討し、修正させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>カードの記入例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・律令 ・公地・公民の原則 ・班田収授法 ・大仏建立 ・都の建設 ・貴族の勢力 など </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題「なぜ、貴族の藤原氏が政治の実権をにぎるようになったのだろうか」について考える。 <p>【個別・班別】（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公地公民の原則が崩れたことなど、藤原氏が広大な荘園を所有した歴史的な背景に着目させる。 ・課題に沿っているか定義するように助言する。 	<p>②墾田永年私財法の影響などで有力な貴族や寺社などの私有地が増えていき、藤原氏に寄進された大規模な荘園が摂関政治の経済的基盤になったことを記述している。</p> <p>[ワークシート]</p>
<p>考え ・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の文化財のうち国際的な要素をもったものを一つ（Ⅰ）、日本風な特徴を持ったものを一つ（Ⅱ）選び、それぞれの特色をまとめ発表する。 <p>【班別】（1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が分かればそれについても説明させる。 ・自分の考えの明確にしながら裏付けとなる証拠資料を発表させる。 	<p>②7・8世紀の国際的な要素をもった文化と、10世紀の以降の日本風な特徴をもった文化それぞれにふさわしい資料を選び、それを選んだ理由をまとめている。</p> <p>[ワークシート]</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した古代の歴史的な事象をできるだけ出してみよう。 ・古代に始まったものを、今とのつながりから見て「そのままつながっているもの」「変化してつながっているもの」「つながらなかつたもの」に分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの既習の学習を生かし、古代から始まった事象について、ブレインライティングをさせる。 ・「今とのつながりから見て、古代はどのような特色のある時代なのだろう」をKJ法でまとめさせる。 	<p>①②古代の歴史的な事象に対して関心を高め、意欲的に追究して、古代の特色をとらえようとしている。</p> <p>[発言・ワークシート]</p>

【班別】 (2) 本時 1 / 2	・班ごとに発表させる。	
・単元終了後にペーパーテストを実施する。 【個別】 (1)		①②③④古代の国家形成や文化の特色について理解している。

6 本時の学習

(1) 目 標

古代に始まったものが今にどのようなにつながっているのか、調べたことを基に話し合う活動を通して、古代とはどのような時代か、判断し、表現する。

(2) 準 備 教科書、ノート、ワークシート、歴史資料集、歴史用語集

(3) 展 開

学 習 活 動	単 元	指 導 上 の 留 意 点 と 支 援	評 価 項 目
・前時を振り返る。	10分	・小学校や前時までの学習を生かし、歴史学習の意欲づけを図る。 ・本時の学習の進め方を確認する。	①前時の学習について確認し、本時の課題を明確にする。
学習課題：現代とのつながりから見て、古代はどのような特色のある時代なのだろう。			
・6人ずつ5班に分かれ、全員で意見を出し合う。 ・小学校や前時までの既習の学習を生かし、古代から始まった事象についてブレインライティングで解決方法をさぐる。	30分	・各ワークシートに一人1回1分、歴史的事象3つを5回出し合う。とにかくたくさん出せるようにする。 ・必ず前の人の考えから連想して書くようにする。 ・単なるまねではなく、他の意見を参考に異なる視点を持つ。	②③④基礎的・基本的な知識・技能・表現を使っている。
<p>「古代に始まったものは、今、どのようなすがたをしているだろう」 そのままつながっているもの…「日本」、源氏物語・枕草子、ひらがな など 変化してつながっているもの…大化、政治の仕組み、律令国家、平城京・平安京、天皇、 交易、仏教、租・調・庸、戸籍、富本銭・和同開珎 など つながらなかったもの…天皇中心の政治、貴族による政治、撰閣政治、遣隋使・遣唐使、 兵役 など</p> <p>・古代に始まったことは、様々に変化しながらも、多くのことが今の社会の制度や文化につながっているのだな。 ・古代に始まったものの中には、今につながらなかったものもあるのだな。</p>			
・相互評価、自己評価を行う。 ・次時の予告を知る。	10分	・ワークシート評価表を使い、評価させる。 ・次時に発表をすることを知らせる。	